

台北医学大学保健栄養学系での研究者交流

食と農免疫国際特別教育プログラムにて、1ヶ月間（2023年10月31日から2023年11月30日）、台北医学大学保健栄養学系に短期留学し、疾患モデル動物を扱う実験やサンプルの解析手法を学びました。楊素卿教授の研究室では、アルコール性肝障害モデルの実験を補助し、アルコール飼料の調製やラットの行動試験を学びました。動物の病理組織標本の作製については、葉教授の紹介により三軍総医院の病理学グループを訪れ、自動染色装置などの設備を見学しました。さらに、パラフィンブロックの作成から薄切までを実際に体験し、病理学的評価の一連の過程を学ぶことができました。博士課程の蘇氏にはりポ多糖の気管内投与や気管支肺胞洗浄をご教授いただきました。また、毎週月曜日には修士課程1年生の論文紹介の授業に参加し、英語による学生同士の活発な議論に刺激を受けました。

現地では、研究室の学生達と昼食や夕食を共にし、様々なアドバイスをいただくことで台湾での生活を快適に送ることができました。また、台湾の文化を学ぶだけでなく、互いの研究環境やキャリアについて知る機会となり、自身の視野を広げることができました。

最後に、このような貴重な経験は、楊教授を始めとする台北医学大学の先生方ならびに学生の皆様、食と農免疫国際教育センターの関係者の皆様のご支援により得ることができました。心より御礼申し上げます。

（文：東北大学農学研究科 農芸化学専攻 栄養学分野 博士課程前期1年 安西俊輔 張田颯馬）



左上：歓迎会での集合写真、右上：組織標本の作製、左下：滞在先近辺の夜市、右下：楊教授（中央左）とラボメンバー